岡山県埋蔵文化財発掘調査報告　75

# 赤浜散布地ほか

県営土地改良総合整備
事業に伴う確認調査

1990年3月

岡山県教育委員会

# 序

本報告書には、総社市赤浜・下林・窪木に所在する赤浜散布地・下林散布地の確認調査の結果を収載しました。

この確認調査は、県営土地改良総合整備事業の実施に先だって、埋蔵文化財の資料を得て保護・保存と、土地改良総合整備事業との調整を図るため、平成元年度国庫補助事業として実施したものであります。

調査の結果、赤浜散布地では弥生時代から中世までの土器溜り・柱穴などの遺構が検出されました。下林散布地では弥生時代から中・近世にかけての土壙・柱穴などの遺構が検出され、それぞれ弥生時代から近世にいたる土器・土製品・鉄釘などの遺物が出土しました。この調査結果に基づき、現在関係機関等と保存協議を進めているところであります。

本報告書が、文化財の保護・保存のために活用され、また、地域の歴史を研究する資料として広く役立てば幸いと存じます。

最後に、発掘調査ならびに報告書の作成にあたって、岡山県文化財保護審議会委員をはじめ、総社市、総社市教育委員会ならびに土地所有者等関係各位から賜りました多大な御協力と御指導に対し、厚く御礼申し上げます。

平成２年３月

岡山県教育委員会

教育長　竹　内　康　夫

# 例　言

1．本書は、岡山県教育委員会が、総社市赤浜ほかにおける県営土地改良総合整備事業に伴い、平成元年度国庫補助を受けて実施した「赤浜散布地ほか」の発掘調査報告書である。

2．遺跡は、総社市赤浜ほかに所在する。

3．発掘調査にあたっては、専門委員の鎌木義昌（岡山理科大学理学部長、岡山県文化財保護審議会委員）・近藤義郎（岡山大学文学部教授、岡山県文化財保護審議会委員）・水内昌康（岡山県文化財保護審議会委員）の各氏から指導・助言を受けた。

4．発掘調査は、岡山県古代吉備文化財センター職員内藤善史が担当し、平成元年11月６日から平成２年１月23日まで実施した。

5．発掘調査にあたっては、総社市、総社市教育委員会、総社市浄化園、地権者各位から多大な援助を受けた。

6．本書の執筆、編集は、岡山県古代吉備文化財センター（岡山市西花尻1325－３）において、内藤が行った。

7．本書に使用したレベルの数値は海抜高である。方位は、第１・２図が真北、他は磁北である。

8．本書第２図に使用した地形図は、建設省国土地理院発行の25,000分の１地形図(総社東部)を30,000分の１に縮尺複製したものである。

9．出土遺物、実測図、写真等は岡山県古代吉備文化財センターにおいて保管している。

# 目　　次

例　言
目　次
第１章　地理的・歴史的環境 …… 1
第２章　調査の経緯 …… 3
第３章　発掘調査の概要 …… 5
第４章　まとめ …… 28

# 図　目　次

第１図　遺跡位置図(黒丸印)(1/2,000,000) … 1
第２図　周辺遺跡分布図(1/30,000)…… 2
第３図　赤浜散布地トレンチ位置図
(1/3,000) …… 6
第４図　T-1～5･7･8土層断面図、T-6
平･断面図(1/80) …… 7
第５図　T-9平･断面図、T-10～16
土層断面図(1/80)…… 8
第６図　T-3～10出土遺物(1/4･1/2) …… 9
第７図　T-17･20～22土層断面図、T-18･
19平･断面図(1/80) ……10
第８図　T-23～32土層断面図(1/80) ……11
第９図　T-17～19出土遺物(1/4･1/2) ……12
第10図　T-22～30出土遺物(1/2･1/4) ……13
第11図　T-33平･断面図、T-34～38土層
断面図(1/80)……14
第12図　T-33出土遺物(1/4) ……15
第13図　T-38出土遺物(1/4) ……16
第14図　T-39～45土層断面図(1/80) ……17
第15図　T-40･43出土遺物(1/4) ……18
第16図　下林散布地トレンチ位置図
(1/3,000) ……19
第17図　T-46～48平･断面図、T-49～
51土層断面図(1/80)……20
第18図　T-46～50出土遺物(1/4･1/2) ……21
第19図　T-51出土遺物(1/4) ……21
第20図　T-52～55平･断面図、T-56
土層断面図(1/80)……22
第21図　T-57～59･63･64土層断面図(1/80) …23
第22図　T-52～55出土遺物(1/4･1/2) ……23
第23図　T-56出土遺物(1/4) ……24
第24図　T-57出土遺物(1/4) ……24
第25図　T-60～62土層断面図(1/80) ……25
第26図　T-65･67･69･70土層断面図、T-66･
68平･断面図(1/80) ……26
第27図　T-67～69出土遺物(1/4･1/2) ……27
第28図　確認調査対象範囲および遺跡範囲
想定図(1/9,000) ……28

# 図版目次

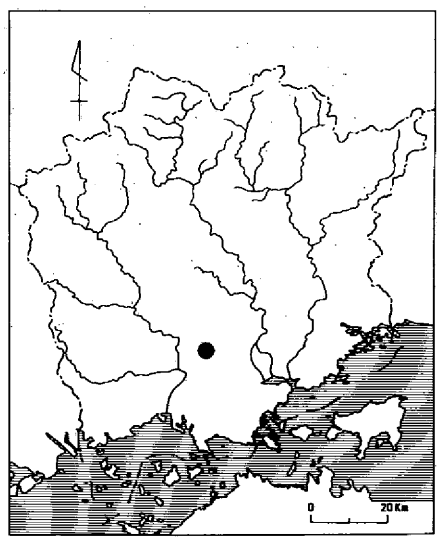
図版1―1　赤浜散布地(北西から)
図版1―2　下林散布地(東から)
図版2　赤浜散布地T-1～3･5･7･8･12･15
図版3　赤浜散布地T-17～20･22･23･25･29
図版4　赤浜散布地T-31･33･35･38･39･41･45
図版5　下林散布地T-46～48･51～54･56
図版6　下林散布地T-59･62･63･67～70
図版7　出土遺物(1)
図版8　出土遺物(2)

# 第１章　地理的・歴史的環境

今回発掘調査を実施した「赤浜散布地ほか」は、総社市赤浜、下林、窪木に所在する。

中国山地中に源を発する、岡山県三大河川の一つ高梁川は、吉備高原を縫って南下し、総社市井尻野付近で分岐した河道は東流して足守川に注ぐ。「赤浜散布地ほか」はこの足守川に合流する手前の、多くの古墳群等が形成されている三須丘陵の北側の平野に位置している。三須丘陵は標高50～60mの低丘陵群で構成され、３.５×１㎞程の丘陵上には庚申山古墳群や40基の古墳が確認されている法蓮古墳群(註１)、下林古墳群、松井古墳群、稲荷山古墳群、緑山古墳群(註２)等全部で約350基もの古墳が確認され、前期古墳から後期古墳まで古墳時代の全期間を通じて築かれている造墓地である。また、赤浜から砂川を挟んだ東側は、山陽自動車道建設工事に伴い新たに発見され発掘調査が行われた高塚遺跡がある。高塚遺跡は弥生時代から中世にかけての複合遺跡であるが、このうち弥生時代後期の集落跡から埋納用の土壙中から銅鐸が発見されている(註３)。古代の遺跡としては、北西に栢寺廃寺(註４)が位置し、備中国府推定地(註５)も近い。さらに北側の平野北縁には古代山城鬼ノ城(註６)が所在する。この他東２㎞には、水攻めで名高い備中高松城跡が位置し、周辺の丘陵上には戦国時代の山城も築かれている。赤浜散布地内の南東部にある赤浜城山にも建物等の遺構が存在する城山跡であることが明らかになっている(註７)。「赤浜散布地ほか」の所在する総社市東部は各時代を通じて重要な役割りを担ってきている主要な地域である。

「赤浜散布地ほか」は耕作土中に弥生時代から中世の土器が散布しており、弥生時代から中世にかけての集落地が想定されている。



**第１図 遺跡位置図(黒丸印)(1/2,000,000)**

**註**

註１　『法蓮古墳群』「総社市埋蔵文化財発掘調査報告２」総社市教育委員会　1985
『法蓮40号墳』「総社市埋蔵文化財発掘調査報告４」総社市教育委員会　1987

註２　『緑山古墳群』緑山古墳群調査団　1987

註３　『所報古備』第7号　岡山県古代吉備文化財センター　1989

註４　『栢寺廃寺緊急発掘調査報告』「岡山県埋蔵文化財発掘調査報告34」岡山県教育委員会　1979

註５　『備中国府跡緊急確認調査』「総社市埋蔵文化財発掘調査報告７」総社市教育委員会　1989

註６　『鬼ノ城』鬼ノ城学術調査委員会　1980

註７　総社市教育委員会の教示による。

1．赤浜散布地(調査地)
2　下林散布地(調査地)
3．赤浜城山城跡
4．庚申山古墳群(総社市)
5．庚申山遺跡
6．庚申山東遺跡
7．庚申山古墳群(岡山市)
8．雲上山1～40号墳
9．小造山古墳
10．夫婦塚(のみや)古墳
11．銭瓶塚古墳
12．新池大塚古墳
13．下林古墳群
14．法蓮古墳群
15．亀山古墳
16．松井古墳群
17．ドンドン山古墳群
18．稲荷山古墳群
19．緑山古墳群
20．賀夜廃寺跡(栢寺廃寺)
21．深町遺跡
22．本台山遺跡
23．本台山古墳群
24．長良山遺跡
25．長良山古墳群
26．久米古墳群
27．延寿寺跡
28．散布地
29．上土田古墳群
30．大崎古墳群
31．浦尾古墳群
32．大崎西古墳群
33．散布地
34．散布地
35．散布地
36．散布地
37．生石神社裏山古墳群
38．向井古墳群
39　大崎廃寺
40．高塚遺跡
41．三手遺跡
42．津寺遺跡
43．甫崎天神遺跡
44．甫崎古墳群
45．津寺C遺跡
46．黒住山古墳群
47．向場古墳群
48．造山古墳
49．造山古墳付古墳群
50．車塚古墳
A～H 散布地

第2図　周辺遺跡分布図（1/30,000）

# 第2章　調査の経緯

総社市赤浜、下林、窪木一帯において県営土地改良総合整備事業が計画されているが、当地については、総社市教育委員会から昭和63年9月30日付で、文化財保護法第57条の6第1項の規定による遺跡発見届が上げられ、それに伴い遺跡の範囲確定および、遺跡保存の協議資料を得る為、工事着手前に平成元年度国庫補助を受けて確認調査を実施することとなった。

発掘調査は、岡山県古代吉備文化財センターが、専門委員の指導・助言を得て平成元年11月6日から平成2年1月23日まで実施した。

調査にあたっては、総社市役所、総社市教育委員会、総社市浄化園、地権者等関係各位から多大の御協力を得た。また発掘作業にあたっては、地元有志の方々にご協力を得た。記して厚く御礼申し上げます。

**調査体制**

岡山県古代吉備文化財センター

| | |
|---|---|
| 所　　長 | 長瀬日出明 |
| 次長(調査第一課長) | 河本　清 |
| 総務課長 | 竹原　成信 |
| 文化財保護主任 | 内藤　善史（調査担当） |

発掘作業員

犬飼克己・岡　了・角田歓一・中川信夫・新谷和男・野々口親利・芳谷雅一・前田　智・槙枝　茂・守谷幹夫・片山典子・角田京子・角田幸子・角田時子・角田睦子・中川照子・信元夏子・芳谷綾子・槙枝好恵

## 日　誌　抄

**平成元年**

11月6日(月)　器材搬入、赤浜散布地調査開始、T—1・2・3掘り下げ

7日(火)　T—3・4・5掘り下げ、T—1・2写真撮影

10日(金)　T—5・6・7・8掘り下げ

14日(火)　T—8・9・10掘り下げ

15日(水)　T—8・9・10・11・12掘り下げ、T—8写真撮影、断面実測

16日(木)　T—6・9・10・11・12掘り下げ、T—10写真撮影・断面実測

17日(金)　T—3・6・9・11・12・13・14・15掘り下げ、T—3・6・9・11写真撮影、T—9断面実測

21日(火)　T—4・5・12・13・14・15掘り下げ、T—13・14・15写真撮影、T—15断面実測

22日(水)　T—4・5・7・16・20・21掘り下げ、T—4・5・7・12写真撮影、T—13・14断面実測

27日(月)　T—2・4・5・6・11・12断面実測

28日(火) T—20・21・22掘り下げ
29日(水) T—20・21・22・23・24・25掘り下げ、T—20・21・22写真撮影
12月1日(金) T—23・24・25・26・27・28掘り下げ、T—23・24・25写真撮影
4日(月) T—26・27・28・29・30掘り下げ、T—26・27写真撮影
5日(火) T—28・29・30・31掘り下げ、T—28写真撮影、T—3・7断面実測
6日(水) T—29・30・31・32・33掘り下げ、T—29・30・31写真撮影、T—1・27・28断面実測
7日(木) T—32・33・34・35・36掘り下げ、T—32写真撮影、T—22・23・24・29・30断面実測
8日(金) T—35・36・37・38・44・45掘り下げ、T—35・36写真撮影
11日(月) T—34・37・41・42・44・45掘り下げ、T—34・37写真撮影、T—25・26・31・32断面実測
12日(火) T—39・40・41・42・43・45掘り下げ
13日(水) T—16・39・40・41・42・43・44・45掘り下げ、T—40・41・42・44・45写真撮影
14日(木) T—16・39・43掘り下げ、T—39・43写真撮影、T—20・23・25確認掘り下げ
15日(金) T—16・17・18・19掘り下げ、T—16写真撮影、T—20確認掘り下げ、T—16・34・35・36・37断面実測
18日(月) T—17・18・19・33・38掘り下げ、T—17・18・19写真撮影、T—21・39・40・41・42・43・44・45断面実測
19日(火) T—18・19・33・38掘り下げ、T—17・18・20断面実測
20日(水) T—33・38掘り下げ、T—33・38写真撮影、T—19・33・38断面実測・器材片付け
21日(木) 下林散布地へ移動，調査開始、T—46・47・48・49掘り下げ
22日(金) T—46・47・48・49・60・61・62掘り下げ
25日(月) T—50・51・60・61・62掘り下げ、T—60・62写真撮影
26日(火) T—50・51・52・58・61掘り下げ、T—61写真撮影、T—60・61・62断面実測
27日(水) T—50・51・52・58・59掘り下げ、T—50・51写真撮影

**平成2年**

1月8日(月) T—52・53・58・59・63・64掘り下げ
9日(火) T—53・56・57・63・64掘り下げ、T—63・64写真撮影
10日(水) T—53・56・57掘り下げ、T—63・64断面実測
11日(木) T—49・52・53・54・55・56・57・58・59掘り下げ、T—49・52・57・58・59写真撮影、T—51・58・59断面実測
12日(金) T—47・54・55・65・66掘り下げ、T—49・50断面実測
16日(火) T—47・65・66・67・68掘り下げ、T—65・47写真撮影、T—47断面実測
17日(水) T—66・67・68・69・70掘り下げ、T—66・68写真撮影
18日(木) T—54・55・56掘り下げ、T—46・48・53・55・56・67・69・70写真撮影、T—46・48・67・68断面実測・器材片付け，撤収
19日(金) T—54掘り下げ、T—54写真撮影、T—52・53・54断面実測，下林散布地トレンチ安全点検
20日(土) 赤浜散布地トレンチ安全点検
22日(月) T—65・66・69・70断面実測
23日(火) T—55・56・57断面実測

# 第３章　発掘調査の概要

今回の発掘調査の対象範囲は、赤浜地区の東側約３分の１の地域と下林地区の東側半分程の地域の２か所で、双方が距離的にもかなり離れていることから、それぞれを赤浜散布地、下林散布地と仮称して、まず、赤浜散布地に２×５mのトレンチ45本を、次いで下林散布地に同じく２×５mトレンチ25本を掘開して遺跡の範囲等を確認する調査を行った。

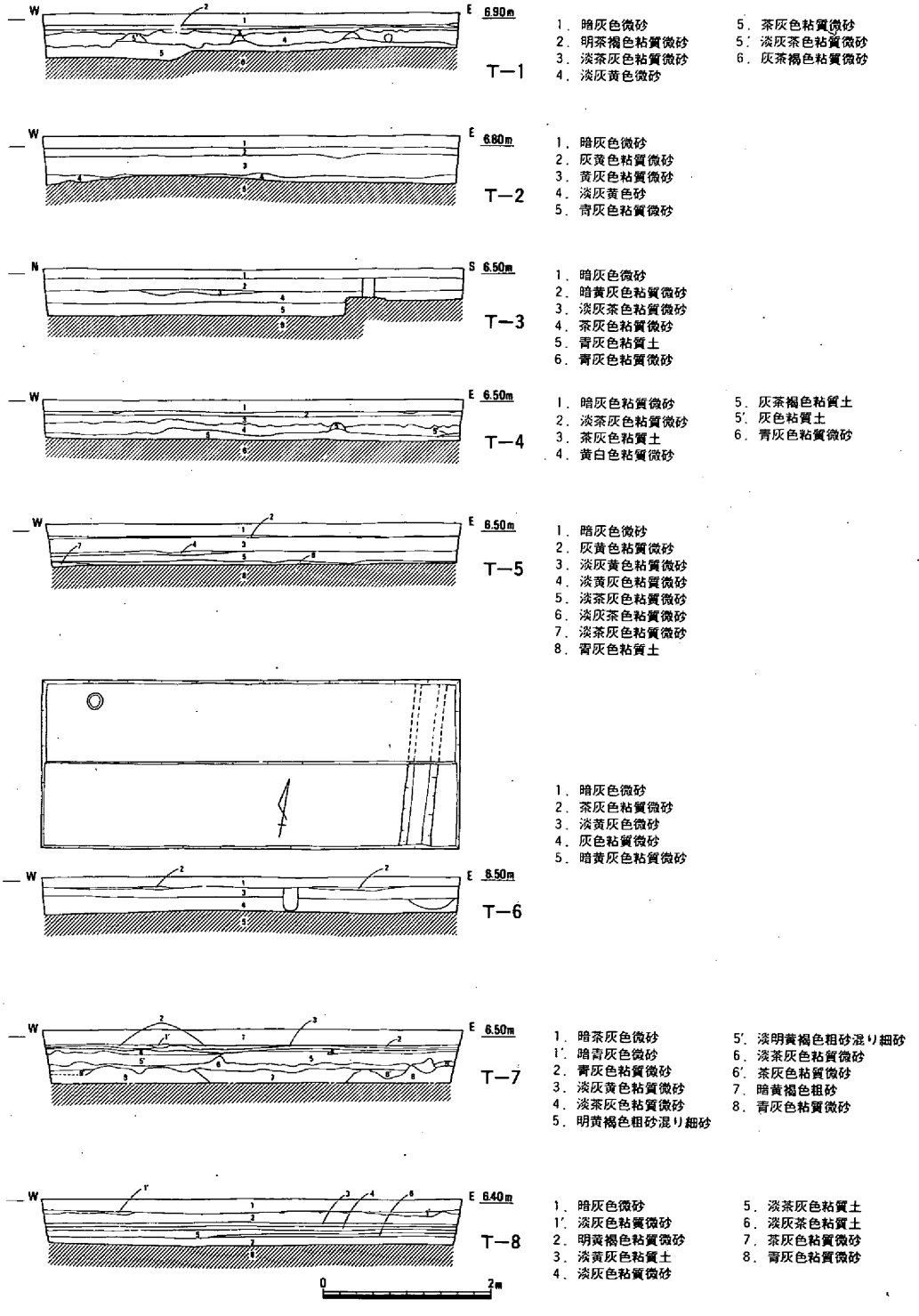
## 第１節　赤浜散布地

赤浜散布地では、調査対象地域内にT－１からT－45まで45本のトレンチにより確認調査を行った。各トレンチの調査結果は以下のとおりである。

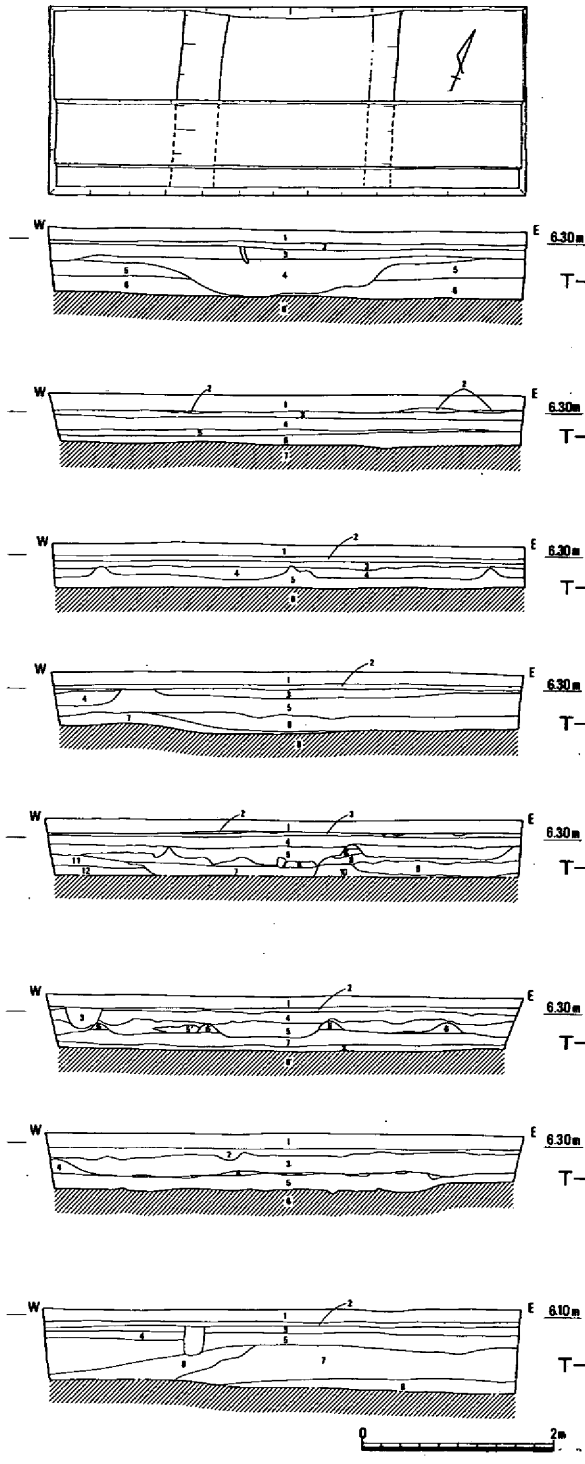
T－１～16（第４～６図）

T－１からT－16は調査区の北側から東側にかけて堤防に沿った地区に設定したトレンチである。T－１は表土から30cm程のところに洪水砂により埋没している畔を伴った水田跡が認められる。この水田跡は、この他にT－２・４・７・11～15でも確認されているもので、近・現代において堤防が決壊しており、その折埋没した水田面と考えられる。中世の土器等が含まれるのは第５層以下で、土鍋等の遺物が若干出土しているものの遺構等は検出されていない。T－２も遺構は認められず、土器等遺物もごく僅かである。T－３では、土師質の擂鉢１や備前焼の擂鉢４や早島式の椀３等中世から近世初頭にかけての土器片が第５層、第６層から出土しているが、第６層はかなりグライ化が進んでおり、遺構等は認められない。T－４・５は出土遺物は殆んどなく、若干の土器片等が認められるのみで、遺構等は検出されていない。T－５の堆積土中から１の鉄釘が出土しているが、時期等は不明である。T－６では第５層が青磁５・白磁６等の輸入磁器や備前焼の擂鉢８、早島式の椀７、土鍋９等の土器の細片を含む包含層で、この包含層を切り込んで、溝状遺構１条が東端部で、柱穴１本が北西部で検出されている。溝状遺構からは亀山焼の甕９や土鍋10等中世の土器片も出土しているが、時期等は不明である。規模は検出面で幅55cm、深さ約15cm程で埋土は黄灰色粘質微砂である。柱穴も中世包含層上面において検出されたが、出土遺物等はなく時期は不明である。T－６からは２の鉄釘が出土しているが、時期等が不明である。T－７～９では若干の土器片が堆積土中に認められるが、遺構等は検出されていない。T－10では僅かに第６層から備前焼の擂鉢14や土鍋15等の中世土器片が出土しているが、遺構等は認められない。T－11～16の５本のトレンチでも若干の土器片が堆積土中から出土しているが、いずれも細片で、流れ込みによる堆積と考えられる。遺構は

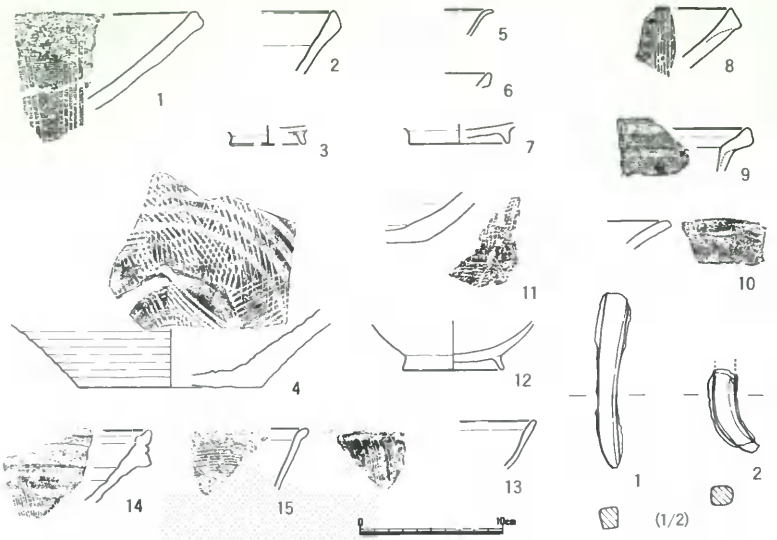
第３図　赤浜散布地トレンチ位置図(1/3,000)




第４図　T−1〜5･7･8土層断面図，T−6平･断面図（1/80）




第5図　T−9平・断面図，T−10〜16土層断面図（1/80）

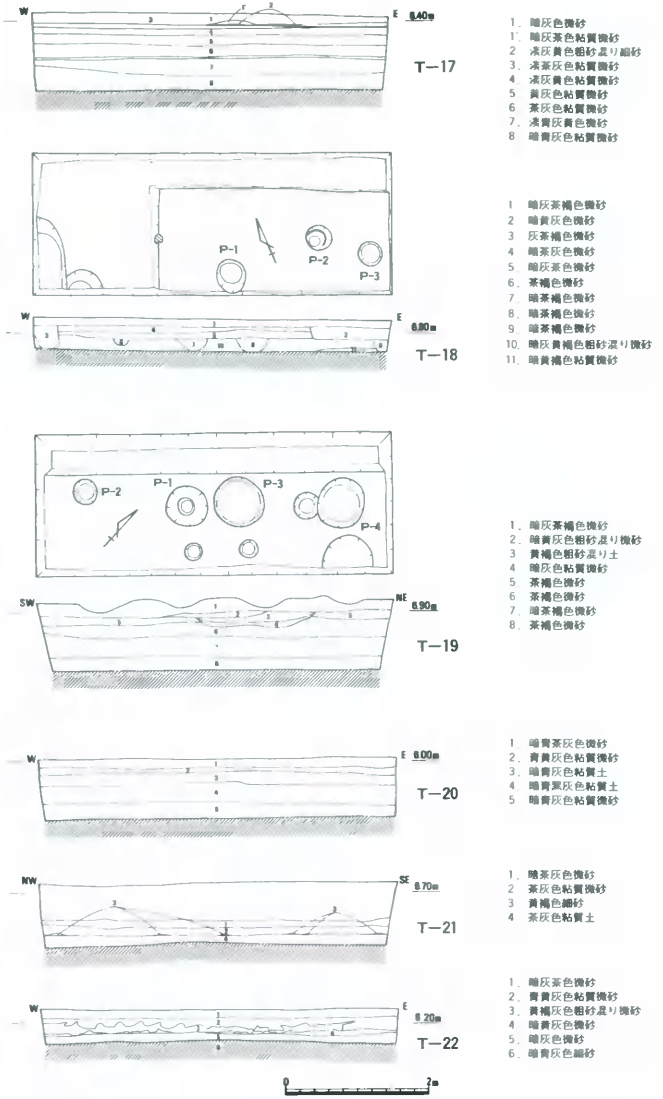



第6図　T—3～10出土遺物(1/4・1/2)

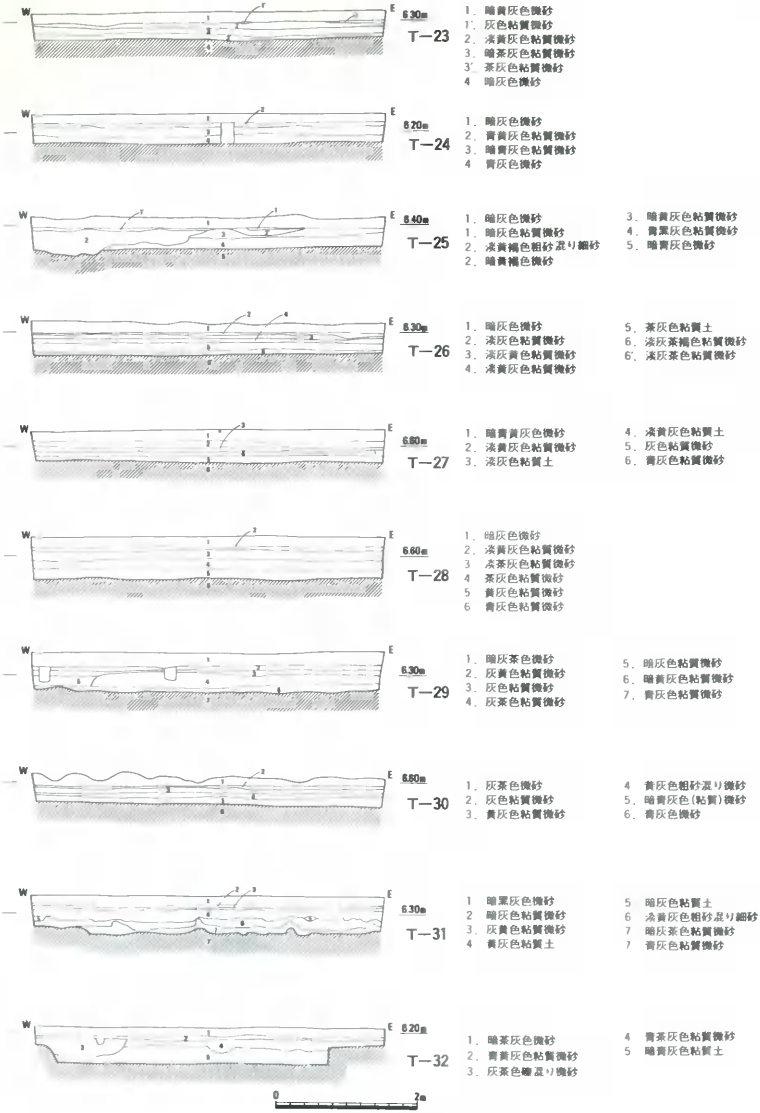
いずれからも認められない。

**T—17～19（第7～9図）**

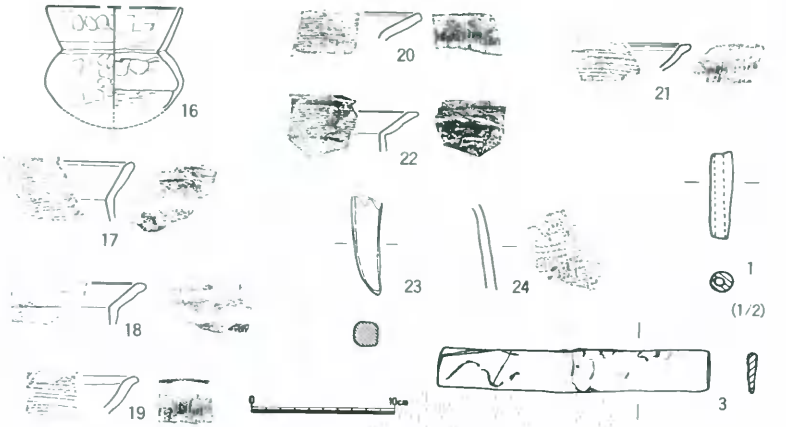
**T—17**から**T—19**は庚申山と赤浜城山との間に位置しているトレンチで、当地区の現地形において最も高いところに位置し、現在は畑地として使用されているところである。**T—17**は表土から40cm程下の**第6層**が、**備前焼・亀山焼・土鍋・早島式土器**等の土器片を含む中世の包含層である。第7・8層にも若干の中世土器等の土器片が出土しているが遺構は検出されていない。**16**は第7層から出土した土師器である。**3**は第6層から出土した金銅製品であるが、性格等は不明である。**T—18**は表土から12cm程の耕作土直下において、早島式土器の細片を含む柱穴状の遺構が、北西隅の壁際において検出された。また、第4・5層には**17～19**の土鍋の口縁部片等の中世土器が含まれており、その下からは柱穴が検出されている。**P—1**は検出面において直径50cm程の円形で、深さは検出面から約50cmを測る。**P—2・P—3**は、いずれも直径30cm程の円形で、深さは約30cmを測る。埋土はいずれも黄褐色の粗砂混り微砂である。時期は判然としないが、中世と考えられる。第10層では中央やや西寄りのところで炭等が多くみられ、10cm程の焼土塊が認められた。今回のトレンチ調査では遺構の性格を明らかにすることはできなかったが、炉跡の可能性が考えられる。時期は共伴遺物がなく不明である。**T—19**は現地表から約30cm下の**第6層**から中世の土器片が出土している。また、柱穴および柱穴状の遺構が8




第７図　T—17・20～22土層断面図，T—18・19平・断面図(1/80)




第８図　T−23～32土層断面図(1/80)




第9図　T—17～19出土遺物(1/4・1/2)

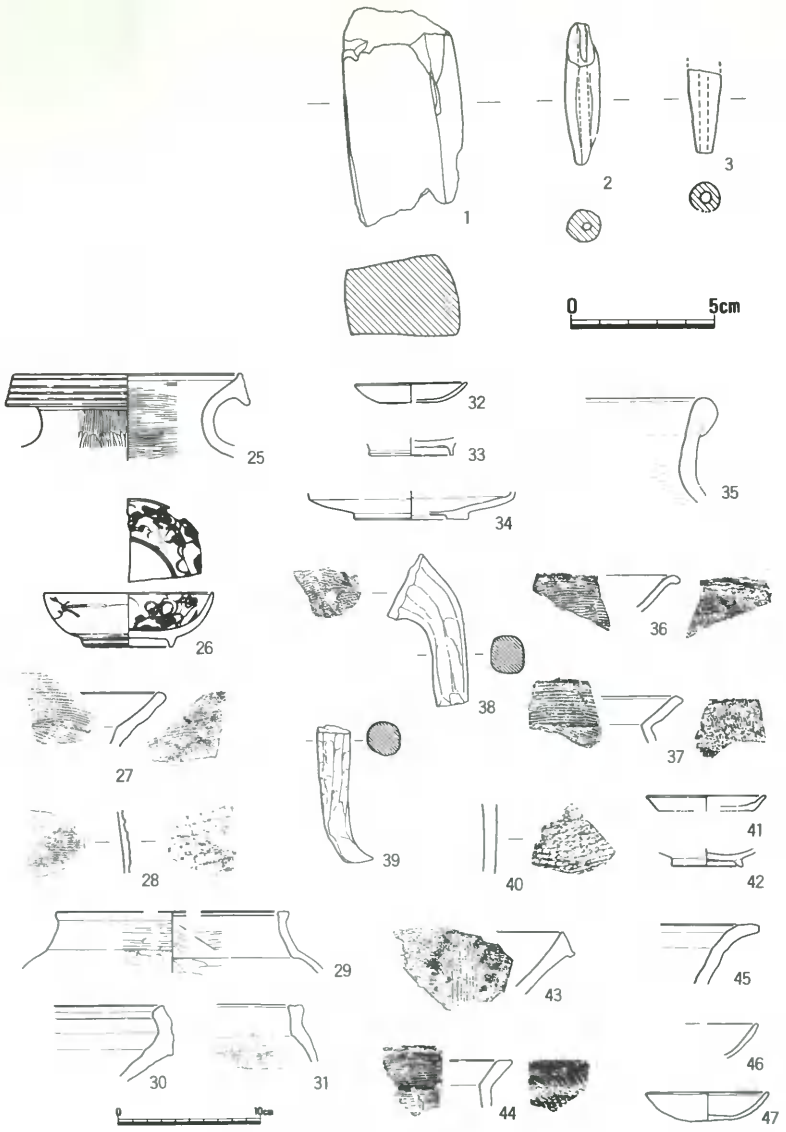
本検出されている。P—1は検出面において直径55cm程の円形で、深さは約30cmを測る。埋土は黄褐色土である。P—2は直径35cm程の円形で深さは約10cmを測り、埋土は黒褐色細砂である。柱穴から出土した土器はいずれも細片であるが、中世のものである。包含層出土の遺物もあまり大きなものは認められない。20～22は土鍋の口縁部片であるが細片で口径等は不明である。23は土鍋の脚部片である。24は亀山焼の甕胴片である。また、1は土錘で残存長3.1cm・最大幅8.0cmを測る。この他に遺存状態が不良で判然としないが、「紹聖元寶」とみられる北宋銭（初鋳1094年）が1枚出土している。

T—20～21（第7図）

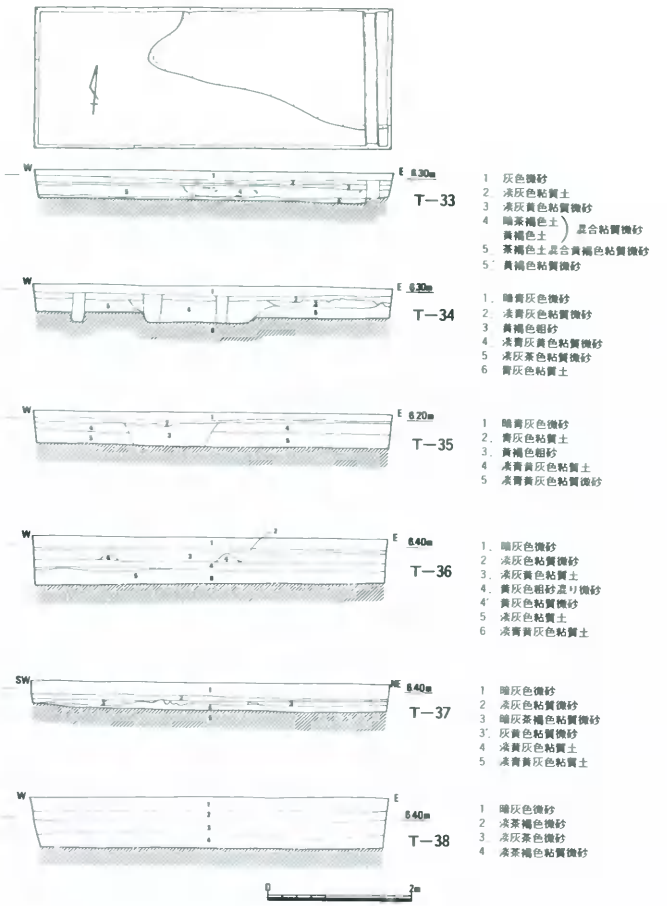
T—20・21は赤浜城山のすぐ北側に位置しているトレンチで、今回対象となっている赤浜散布地の中央部を中心に広がっているクリーク群の中にあり、現状はT—20は畠の広がる荒田である。また、T—21は約60cm造成土を入れて地上げしている。T—20は粘質土および粘質微砂の堆積土がいずれもグライ化しており、遺物等も殆んどみられない。T—21では第4層が包含層と考えられる茶灰色粘質土であるが遺物等は殆んどみられず、遺構等も認められない。

T—22～32（第7・8・10図）

T—22からT—26は、クリーク群のすぐ北側に位置するトレンチである。T—27から30のトレンチは、現在の国道429号線の近くに、T—31・32は国道沿いに位置している。T—22は包含層は認められず、第6層は暗青灰色細砂層である。出土遺物も殆んどない。25は第6層から単独で出土した壺形土器の口縁部片である。26は染付けの皿である。T—23は第3層に若干の中世土器片を含むが、第4層は暗灰色微砂層で遺構等は認められない。出土遺物としては27の土



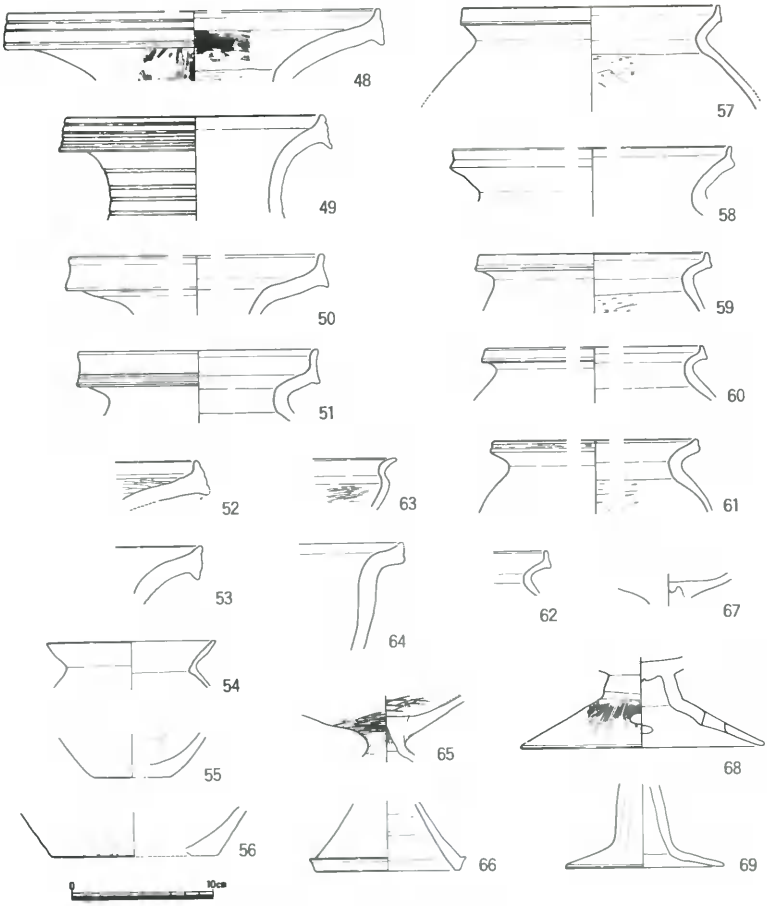

第10図　T—22～30出土遺物(1/2・1/4)




第11図　T—33 平・断面図、T—34～38 土層断面図 (1/80)

鍋の口縁片、28の亀山焼の甕胴片等の他2の土錘がみられる。T—24～26は出土遺物も殆んどなく遺構等は全く認められない。29～31はT—24から出土した備前焼等の中世土器片であるがいずれも細片である。また、ここでは1の砥石が出土している。T—27・28は堆積土が砂質土で包含層、遺構とも認められない。出土遺物としてはT—27から32～34の早島式土器等中世土器の細片が若干みられる。T—29は地表下30cm程の第4層が比較的多量の土器等を含んでいるが、遺構等は検出されていない。出土した土器はいずれも中世土器で細片である。35は備前焼

の甕の口縁部片、36・37は土鍋の口縁部片、38・39は土鍋の脚部片、40は亀山焼の甕腹片、41は土師器の皿、42は土師椀の底部片である。T—30は包含層・遺構とも認められないが、堆積土中から43～47等の中世土器片（備前焼・早島式土器・土鍋等）が出土している。T—31・32は国道沿に位置しているトレンチで、T—31は地表下40cm程に近・現代の洪水砂に埋没した水田跡が認められる他は、遺構等はなく出土遺物も殆んどない。T—32も遺構はなく、遺物も殆んど認められない。



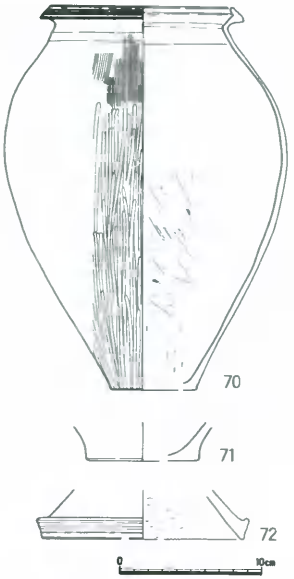

第12図　T—33出土遺物(1/4)

T－33（第11・12図）

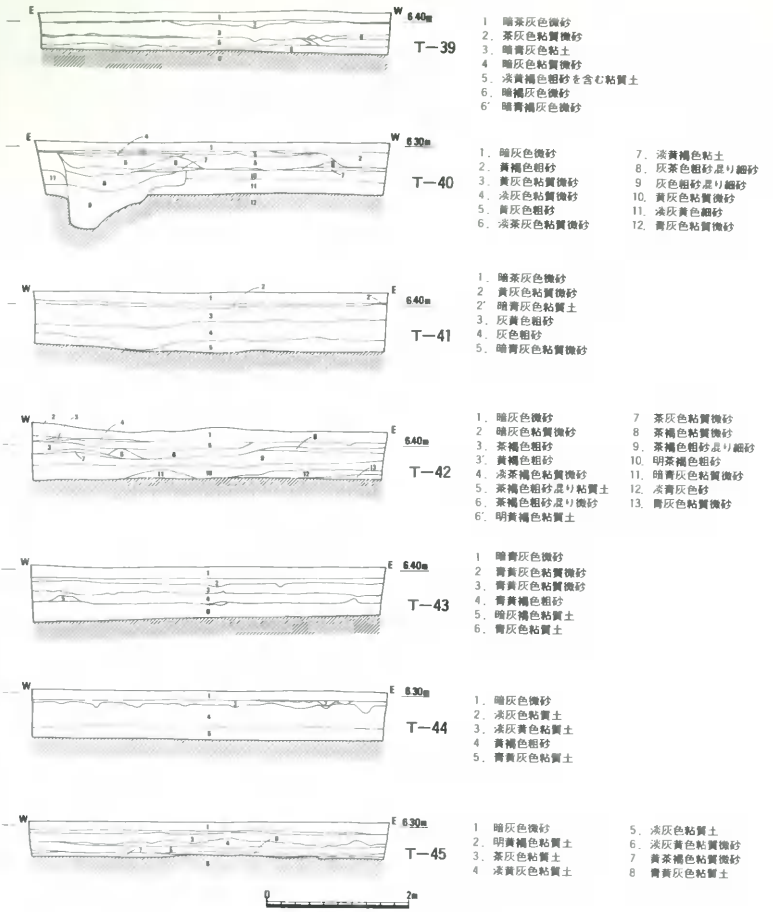
T－33は国道429号線のそばに位置しているトレンチである。耕土直下に近い地表下20cm程のところで、弥生時代後期の土器が多量に出土している土器溜りが検出された。土器溜りの範囲はトレンチの東端から西へ3.4m、北端から南へ東側で1.6m、西側で0.9m程の範囲に広がっている。深さは20cm程の浅いもので、底面は若干の凹凸があるがほぼ平坦である。土器はいずれも破片で、完形に復元できたものもない。48は壺形土器の口縁で、頸部から大きく広がった口縁端部が上下に拡張され、端面に3条の凹線文が巡っている。口縁部の内外面はハケメによる調整が行われている。49は頸部からゆるやかに広がった口縁端部が上下に拡張され、端面に4条の凹線が巡る壺形土器で、頸部外面にも凹線文が巡らされている。50は頸部から外方に広がった口縁の端部が上方に少し大きく拡張されている壺形土器であるが器面の剝離が著しく調整等は不明である。51は短い頸部から外反した口縁の端部が上方に大きく拡張されている壺形土器で口縁部はヨコナデされている。52・53も壺形土器の口縁部の細片である。55・56は壺形土器の底部片であるが、いずれも細片で底径は推定である。57・58は「く」の字状に外反した口縁端部が少し上方に立ち上がっている甕形土器である。59・60は外反した口縁端部を少し拡張して端面をつくっている甕形土器である。61は外反した口縁端部を殆ど拡張しないでまとめている甕形土器である。63・64は鉢形土器の口縁部片であるが、いずれも細片で口径等は不明である。65～69はいずれも高杯形土器である。65は短脚の脚部から杯部にかけての破片である。66は脚裾部片、68・69は脚柱部から裾部にかけての土器片である。68は裾部の3か所に円孔が穿たれている。これらの土器溜りから出土した土器は概ね弥生時代後期のものであるが若干の時期幅をもつと考えられる土器が混っているようである。この土器溜り以外には遺構等は認められていない。

T－34～37（第11図）

T－34はT－33のすぐ南西隣に、T－35から37はさらにその南に位置しているトレンチである。T－34は第5層を中心として若干の土器細片が認められるものの包含層等はなく、遺構も検出されていない。T－35～37はいずれも殆ど遺物等は認められず、遺構等もない。T－36



第13図　T－38出土遺物(1/4)

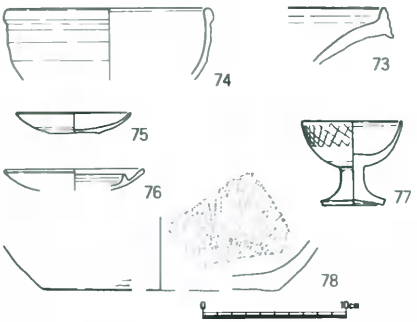



第14図　T—39～45土層断面図(1/80)

では、地表下40cm程に近・現代の洪水砂により埋没している水田跡が認められる。またT—34の第4層、T—35の第3層はクリークを埋めた造成土とみられるものである。

T—38（第11・13図）

T—38は国道429号線沿いの南端に位置しているトレンチで、現地表の高さも若干高目である。ここではトレンチのほぼ中央部の耕作土直下（地表面から約20cm）で、弥生時代中期の甕形土器が押しつぶされた状態で検出された。この土器と伴に若干の土器片が出土している。土




第15図　T—40・43出土遺物(1/4)

壙等の遺構は認められず、土器だけが単独に出土しているものである。70はほぼ完形に復元された甕形土器で、「く」の字状に外反して肥厚した口縁端部が斜め上方に拡張され、端面に4条の凹線文が巡っている。胴部は上から3分の2程のところが最も張り出し、底部に向かってすぼまっている。口径12.5cm・底径6cm・器高25.0cmを測るが、全体に少し歪んでいる。口縁部は内外面ともヨコナデ、肩部外面はタテ向のハケメがみられる。胴部外面はタテ方向にヘラミガキされている。内面は胴部下半をヘラケズリしている。71は甕形土器の底部片、72は高杯形土器の脚裾部片である。この他に壺形土器の口縁部片が一緒に出土している。ほぼ完形に復元された71の他はいずれも細片である。この他にT—38では遺物もほとんど認められず、遺構等も検出されていない。

T—39～45（第14・15図）

T—39からT—45はクリーク群の南に位置しているトレンチである。いずれのトレンチも土器等の遺物は僅かである。また、中世以前に逆上ると考えられる遺構も全く認められていない。この地区は「砂走」と称されているところにあたり、南の谷から押し出された花崗岩バイラン土が厚く堆積している様相を呈している。T—40では地表下40cm程で、近・現代の洪水砂により埋没した水田跡が認められ、トレンチの南西隅では、この水田層直下において井戸状の土壙が検出されている。出土遺物はいずれも近世とみられる陶磁器74～78である。75は小皿・76は燈明皿・78は備前焼の擂鉢である。この他T—42・43・45においても地表下40cm程のところで近・現代の洪水砂により埋没したと考えられる水田跡が検出されている。73は、T—43から出土した壺形土器の口縁部片である。頸部から広がった口縁部が肥厚して斜め上下方に少し拡張して端面をつくっているもので、拡張した端面に4条の凹線文が巡っているが、細片で口径等は不明なものである。

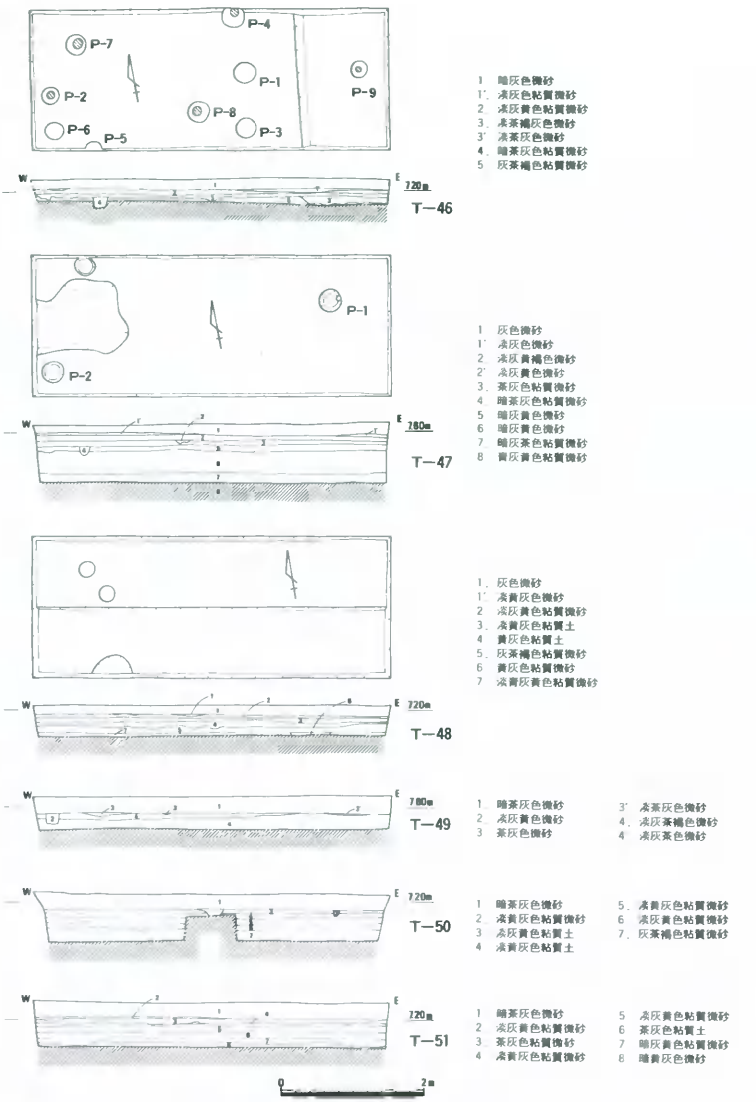
## 第２節　下林散布地

下林散布地では調査対象地域内に、Ｔ－46からＴ－70まで25本のトレンチにより遺跡の確認調査を行った。各トレンチの調査結果は以下のとおりである。

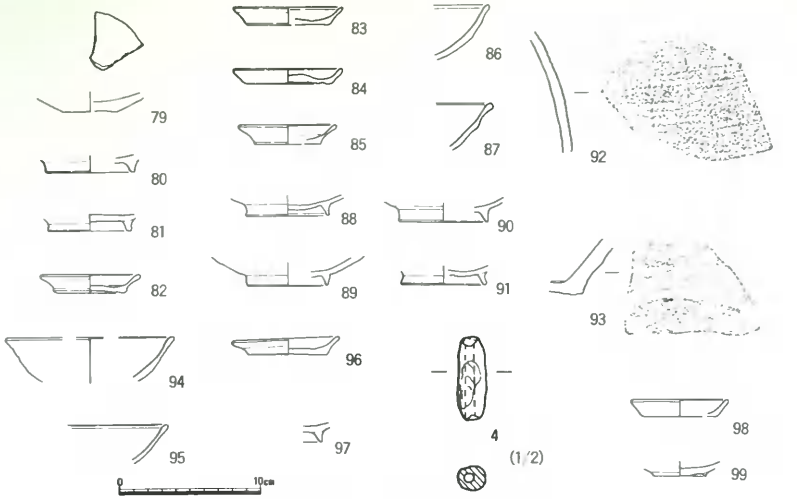
**Ｔ－46～51（第17～19図）**

Ｔ－46～48では、いずれも地表下20cmの耕土直下において、亀山焼や早島式の土器を含む包

第16図　下林散布地トレンチ位置図(1/3,000)



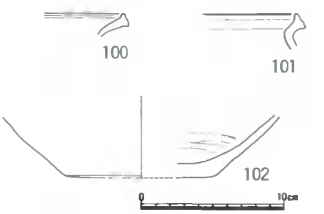

第17図　T—46～48 平・断面図，T—49～51 土層断面図 (1/80)



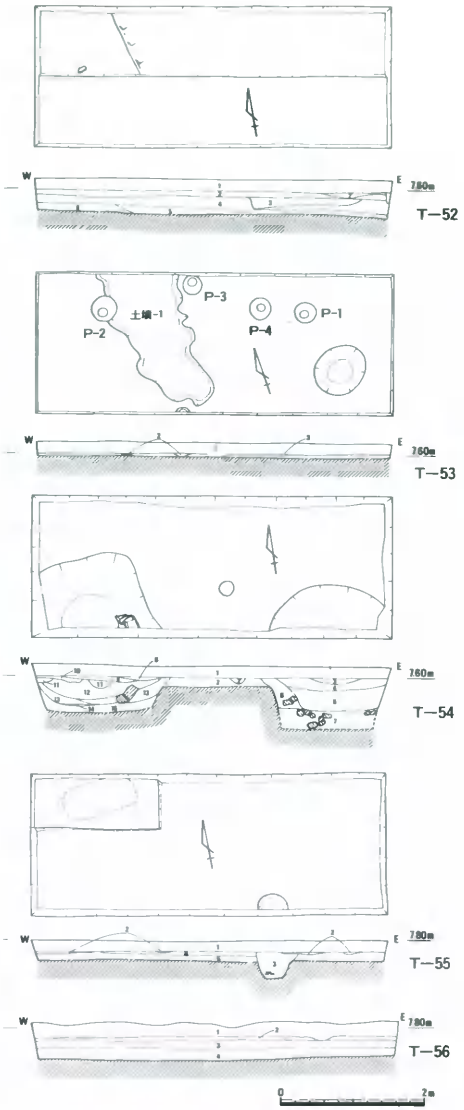

第18図　T－46～50出土遺物(1/4・1/2)

含層が認められ、柱穴・土壙等の遺構が検出された。T－46では、9本の柱穴が検出された。柱穴はいずれも直径25～30cmの円形で、P－2・4・7・8・9の5本は暗茶灰色粘質土の柱痕跡が認められる。P－1～5からは、いずれも早島式の椀・皿等の土器細片が出土している。81はP－4から出土した椀の底部片である。T－47は西端で亀山焼の甕（92・93）や早島式の椀（86～91）・皿（83～85）や土錘3等が出土している不整形の土壙が検出された。埋土は灰茶褐色粘質微砂が堆積している。この他に3本の柱穴が検出された。P－1は直径30cmの円形で、検出面からの深さは25cmを測る。灰茶褐色微砂の埋土中から完形の土師器の皿96や早島式の椀94・95等が出土している。P－2でも早島式の椀の底部片97等が出土している。埋土は灰茶褐色粘質微砂で、検出面からの深さは20cmを測る。T－47では第5層に若干の中世土器が含まれていたものの、第6層以下においては遺構等は認められず、土器等の遺物も全く出土していない。T－48では、灰黄色粘質土で埋っている直径30cm程の柱穴2本と、直径55cm程の黄灰色粘質土で埋っている土壙状遺構の半分が検出されているが、遺構に伴う遺物は出土していない。

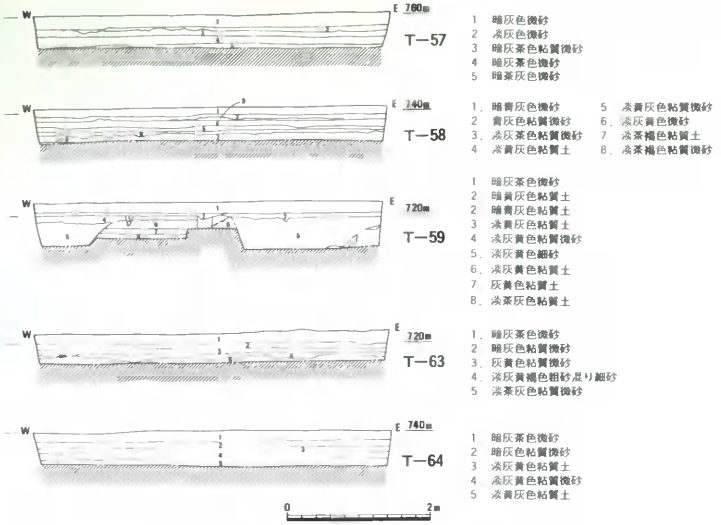
T－49～51においては包含層等は認められず、遺構等も検出されていない。堆積土中に僅かに



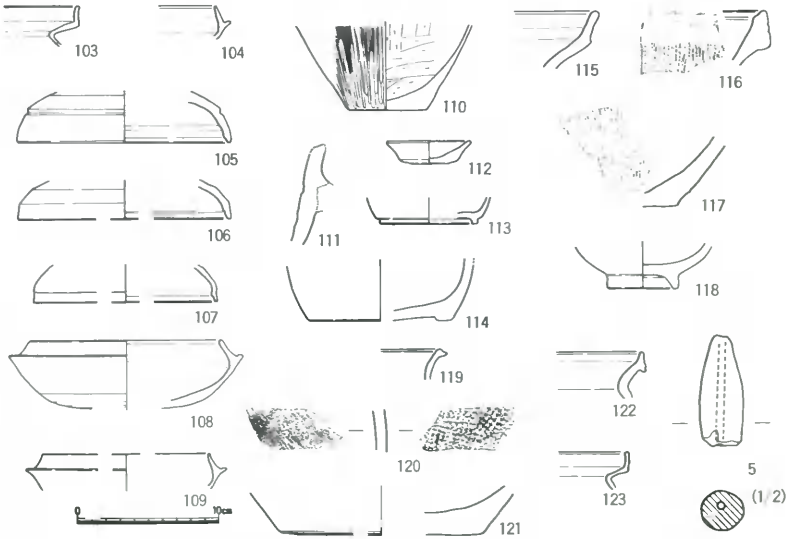

第19図　T－51出土遺物(1/4)



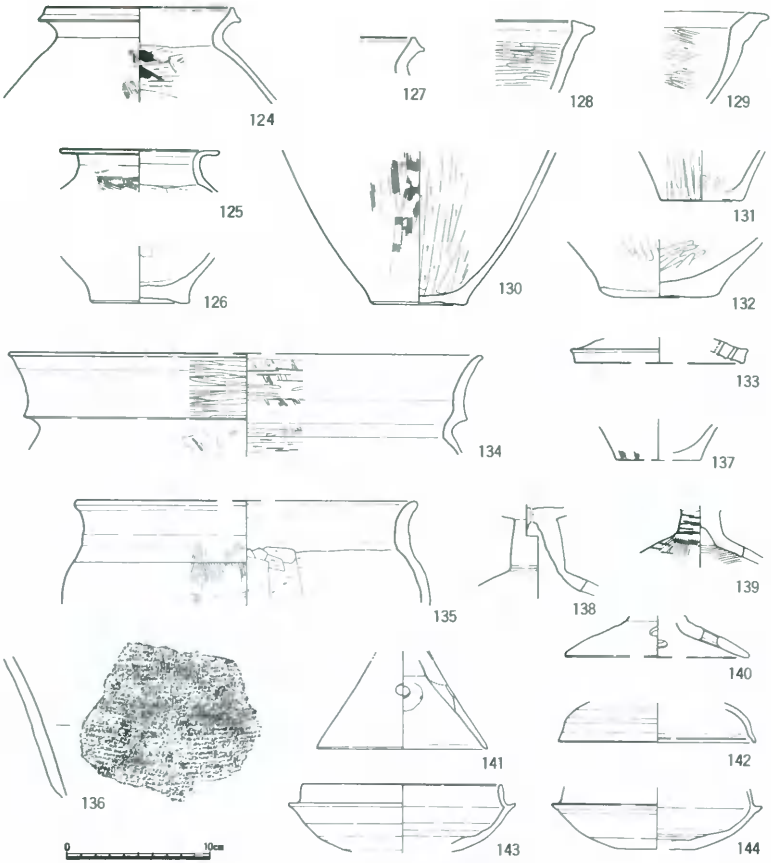

第20図　T—52～55 平・断面図，T—56 土層断面図 (1/80)



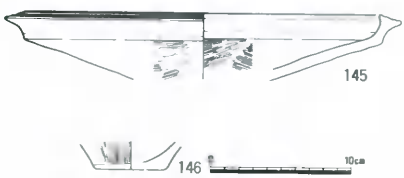

第21図　T—57～59・63・64土層断面図(1/80)



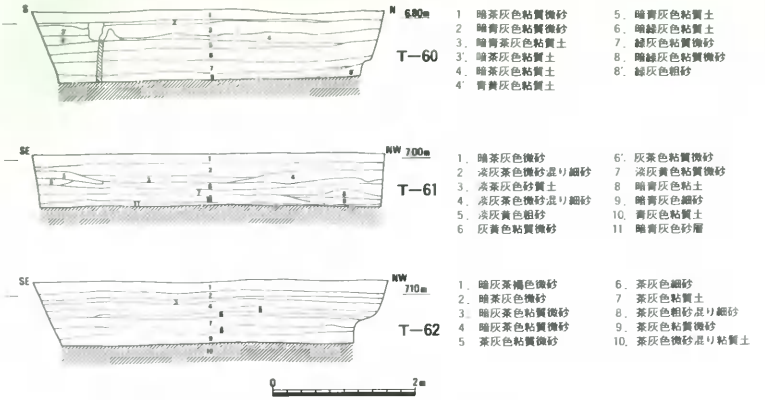

第22図　T—52～55出土遺物(1/4・1/2)




第23図　T－56出土遺物(1/4)




第24図　T－57出土遺物(1/4)

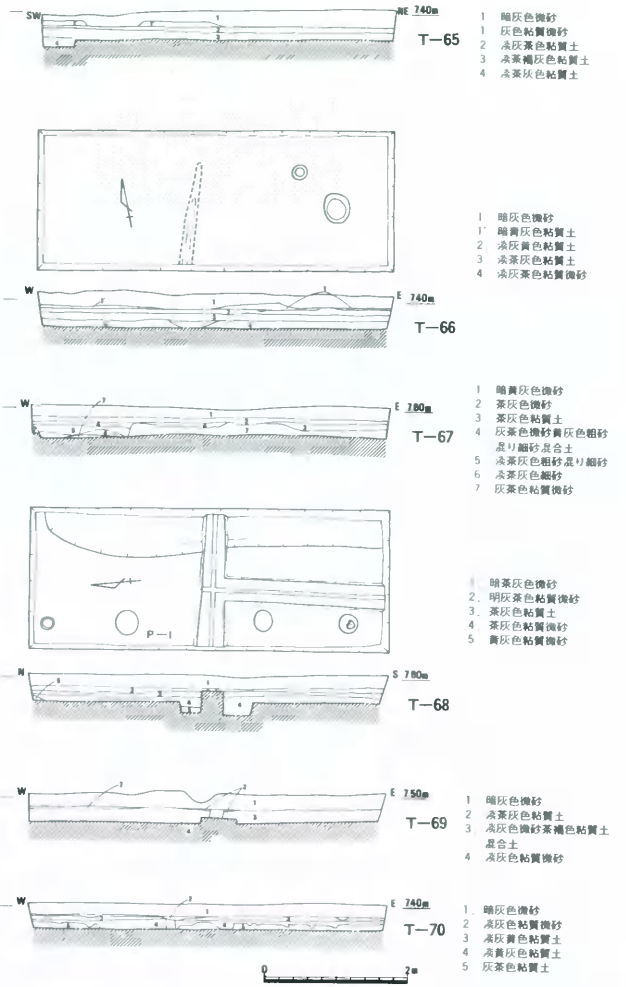



**第25図　T—60～62土層断面図(1/80)**

土器の細片が認められるのみである。98•99は、T—50の埋土中から出土した早島式土器の皿・椀である。100～102は、T—51の埋土中から出土した弥生式土器である。いずれも細片で、器面等も磨耗がみられ、流れ込みによる堆積とみられるものである。

T—52～56（第20・22・23図）

T—52～56は、東流する前川の北側で当地区の現地形において最も高いところに位置しているトレンチである。ここでは耕土直下において須恵器や弥生式土器を含む包含層および柱穴・土器溜り等の遺構が検出されている。T—52では、第4層を中心として須恵器の杯身や杯蓋104～109や土師器103等が出土し、第6層では弥生時代後期の土器が出土している。T—53では、耕土直下において柱穴や土壙等の遺構が検出されている。柱穴はいずれも直径25～30cm程の円形で、柱痕跡が認められる。P—1・2からは、土師器の細片等の土器が出土している。土壙—1は不整形の土器溜り状の遺構で、須恵器・土師器の細片が出土している。T—54は耕土直下の第2層が110等の弥生式土器を含む包含層である。南東隅と南西隅に新しい時期の土壙が検出され、中央部に直径20cm程の柱穴が検出された。南東隅の土壙は、一部に20～30cm大の石が巡る直径160cm程の井戸状の遺構の一部で、備前焼の擂鉢116・117や近世陶器118等が出土している。柱穴の時期は不明である。この他に中世の土器111～114等が出土している。T—55では耕土直下において南壁際に柱穴が検出された。直径は50cm程で、検出面からの深さは40cmを測る。埋土中から122・123等の弥生時代後期の甕の口縁部片等の土器片が出土している。トレンチの北西部では、集石遺構が認められたが、性格等は不明である。この他に119～121等の土器が出土している。T—56では耕土直下において須恵器・土師器等の土器134～144を含む包含層が認められ、東部では弥生時代後期の土器124～133がまとまって出土している土器溜りが

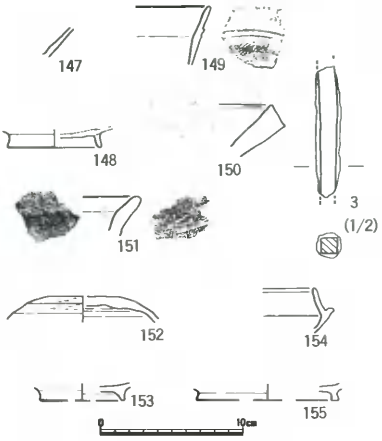



第26図　T—65・67・69・70土層断面図，T—66・68平・断面図(1/80)

検出されている。124・125は壺形土器の、127は甕形土器の口縁部片である。126・130～132は壺形土器や甕形土器の底部片、128・129は鉢形土器の口縁部片である。また、133は高杯形土器の脚裾部片である。

T－57～59・63・64（第21・24図）

T－57～59・63・64の5本のトレンチでは、包含層等は認められず、遺構も検出されていない。出土遺物も僅かで、T－57の埋土中から出土した弥生時代後期の土器145・146の他はいずれも細片である。T－63・64はいずれも包含層は認められず、遺構等も検出されていない。また、遺物もほとんど出土していない。



第27図　T－67～69出土遺物(1/4・1/2)

T－60～62（第25図）

T－60～62は蛇行して北西に流れを変えた前川と赤浜の堤に挟まれたところに位置しているトレンチで、いずれも埋め立てた土や砂・粘土が互層に堆積しており、遺構・遺物等は全く認められない。

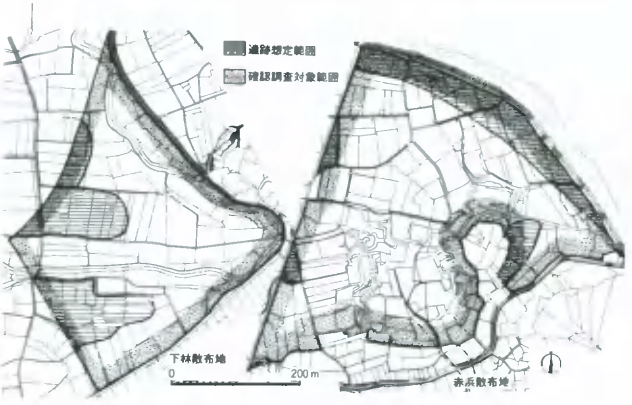
T－65～70（第26・27図）

T－65～70は、東流する前川の南側で、下林の集落との間に位置している。T－65は包含層は認められず、遺構等も検出されていない。T－66は表土下40cmの第4層上面において溝状遺構および柱穴が検出された。遺物がほとんどなく詳細は不明であるが、埋土等から中世の遺構と考えられる。T－67は表土下30cmの第4層等から147の白磁碗片や148の早島式の椀等の細片が出土したものの、遺構等は検出されていない。T－68は表土直下から149の須恵器および土鍋・備前焼等の中世土器が含まれる包含層が認められ、トレンチの東辺沿いには大きな掘り込み状の遺構の一部が検出されている。遺構の埋土からは、150の備前焼の擂鉢や亀山焼の甕、土鍋・早島式の土器等と伴に鉄滓が出土している。また、トレンチ西部では4本の柱穴がほぼ一直線に検出されているが、埋土等に若干の相違がみられるP－1からは151の土鍋の口縁部片が出土している。これらの遺構はいずれも中世を中心とした時期と考えられる。T－69・70ではいずれも包含層は認められないが、T－69では第3層を中心とした堆積土中から、須恵器152・154・155や早島式の椀153等の土器が出土しているが、いずれも細片で底径等は推定である。T－70からは堆積土中から僅かに土器の細片が認められたが、遺構等は認められなかった。

# 第4章　まとめ

今回の調査は、対象範囲が赤浜地区と下林地区とに大きく二分されていた為、前者を赤浜散布地、後者を下林散布地として遺跡の確認調査に入った。このうち赤浜散布地では、ほぼ大半のトレンチから土器等の遺物が出土しているが、細片で磨耗しているものが多く、ほとんどは流れ込みによる堆積とみられる。包含層の濃淡に差はみられるが、一応中世以前の包含層が確認されたのは、(1)堤に沿った対象範囲の北端から北東端にかけてのトレンチ、(2)国道429号線沿いのトレンチ、(3)庚申山と赤浜城山に挟まれたトレンチの3つである。(1)は人工的に設けられた堤の外側から続く微高地の南西端と考えられる性格のものである。(3)は庚申山から延びる尾根筋の延長上に考えられるもので、(2)は国道429号線の西に中心をもつ弥生時代および中世の微高地の東端が一部のぞいていると考えられるものである。一方下林散布地では、(1)T－46～48で検出された中世遺構、(2)T－52～56の弥生時代後期から古墳時代の遺構、(3)T－66～68の中世を中心とした遺構の3か所の遺跡の存在が確認された。このうち(1)と(2)は連続する遺跡か別の遺跡か今回の調査だけでは明らかでないが、(2)と(3)は、前川を挟んで全く別の遺跡と考えられる。地名からみても(1)・(2)は窪木に(3)は下林に属しており、両者は別の遺跡として考えるべきものと思われる。

今回の確認調査により、赤浜散布地では中央のクリーク群に隣接した地点が、また、下林散布地では前川に沿った地点に遺跡が存在していないことが明らかとなった。




第28図　確認調査対象範囲および遺跡範囲想定図（1/9,000）

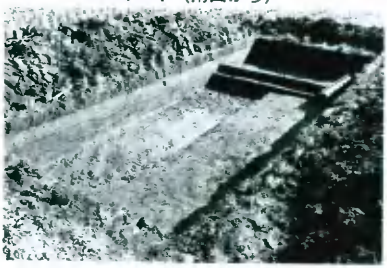
1．赤浜散布地（北西から）

2．下林散布地（東から）

## 図版 2

T－1 （南西から）

2．T－2 発掘風景 （西から）



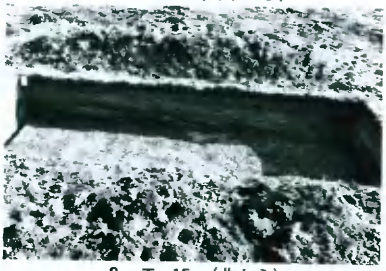
3．T－3 （北西から）

4．T－5 （北西から）

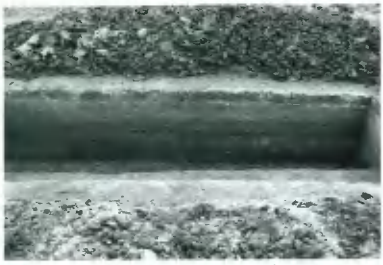
5．T－7 （北東から）

6．T－8 （南東から）

7．T－12 （北から）

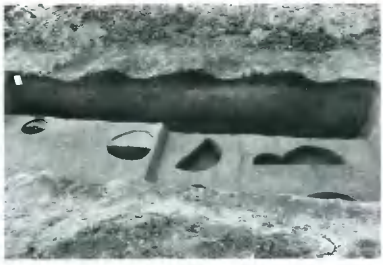


8．T－15 （北から）



1．T−17 （南から）

2．T−18 （南東から）



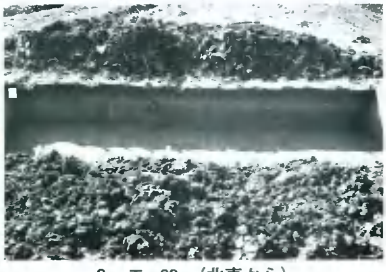
3．T−19 （南東から）

4．T−20 （北から）

5．T−22 （南から）

6．T−23 （南東から）

7．T−25 （南東から）



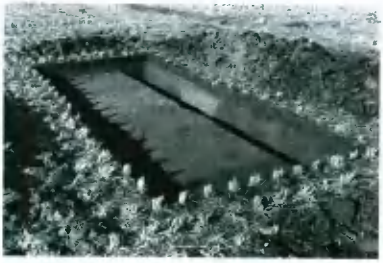
8．T−29 （北東から）

# 図版 4

1．T−31 （南東から）

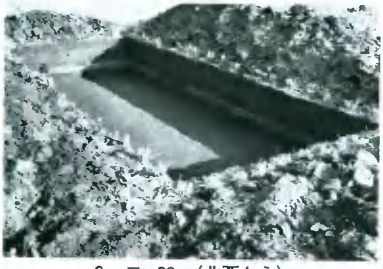
2．T−33 発掘風景（北東から）

3．T−33 土器溜り（南から）

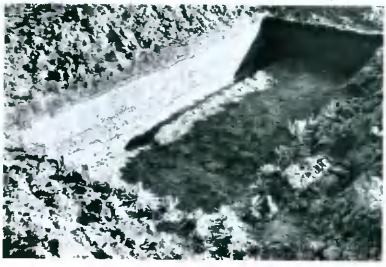


4．T−35 （南東から）

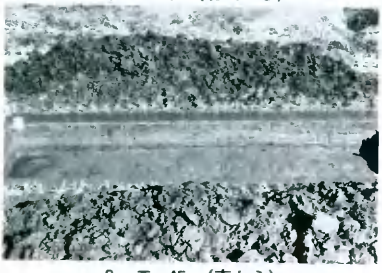
5．T−38 土器出土状況（南から）



6．T−39 （北西から）



7．T−41（南西から）



8．T−45 （南から）

1．T−46 （北から）

2．T−47 （南から）

3．T−48 （北西から）

4．T−51 （南東から）

5．T−52 （南東から）

6．T−53 （西から）

7．T−54 （北西から）

8．T−56土器溜り（北西から）

## 図版 6

1．T−59 （南から）

2．T−62 （北から）

3．T−63 （南から）

4．T−67 発掘風景（南東から）

5．T−68 発掘風景（北から）

6．T−68 （北西から）

7．T−69 （南から）

8．T−70 （南から）

70

124

134

128

125

132

145

130

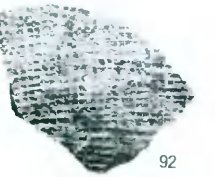
68

出土遺物（1）

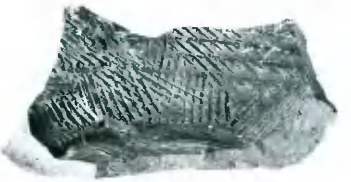
# 図版 8

143

28



92



4

22

93

47

96

1

4

2

1

出土遺物（2）

岡山県埋蔵文化財発掘調査報告 75

# 赤浜散布地ほか

平成２年３月20日　印刷
平成２年３月26日　発行

編　集　岡山県古代吉備文化財センター
発　行　岡山県教育委員会
印　刷　山陽印刷株式会社